

令和 2 年 7 月 7 日

小野寺委員

私からは、運転免許センターにおける技能試験の試験日間隔の短縮について伺います。

私は、運転免許試験場改め運転免許センターのある横浜市旭区を拠点に活動をしています。センターの地元ということで、運転免許の取得に当たっては、センターで技能試験を受ける方も多く、そのための特定届出自動車教習所も周辺に複数存在をしているような状況です。この技能試験については、昨年 2 月の定例会において、受験状況やキャンセル待ちの情報提供など、我が会派から何点か質問をさせていただき、その後、県警察では、ホームページの改善等を行ってくださっていると承知をしています。

しかしながら、特に学生の春休みや新生活への準備期間に当たる 3 月の時期には、受験者が集中するために、適性試験等に合格して、技能試験を受験できるまでの期間、あるいは技能試験に不合格となって、次の技能試験を受験できるまでの期間がかなり長く空いてしまって、予定していた期間内に免許が取得できなくなるというケースもあると聞いています。

現在は新型コロナウイルス感染症の影響もあると思いますが、さらに試験日間隔が空いているという話も、仄聞しています。

そこで、現在の運転免許センターにおける技能試験の受験状況や予約の方法について、何点か伺います。

初めに、運転免許を取得するためには、どのような試験を受ける必要があるのか確認をさせてください。

運転免許課長

運転免許を取得するために、指定自動車教習所を卒業された方は、運転免許センターにおいて、適性試験及び学科試験を受験し、合格する必要があります。一方、指定自動車教習所を卒業せずに、直接運転免許センターで取得する方は、適性試験及び学科試験に加えて技能試験を受験し、合格する必要があります。

小野寺委員

その運転免許試験の受験者のうち、運転免許センターでの技能試験が免除となる指定自動車教習所を卒業せずに、運転免許センターで技能試験を受験する人、いわゆる試験場受験の方々はどのぐらいいるのか伺います。

運転免許課長

令和元年中に、指定自動車教習所を卒業せずに、運転免許センターで技能試験を受験された方は、延べ約 1 万 5,600 人となっております。

小野寺委員

次に、その技能試験の受験者に対する合格者数について、また平均的な受験回数について伺います。

運転免許課長

令和元年中の技能試験の合格者は約 4,400 人であり、合格率は約 3 割となっております。また、合格するまでの平均受験回数は、2.9 回となっております。

小野寺委員

今お話になった2.9回というのは、仮免許と本免許の受験回数を合わせた回数と解釈してよろしいですか。

運転免許課長

委員御指摘のとおり、各試験の平均の回数となっております。

小野寺委員

もう一度確認すると、各試験の平均ということは、コースの中と路上の運転を仮免許と最後の本免許で行い、両方合わせて2.9回という回数でよろしいでしょうか。

運転免許課長

委員の御指摘のとおりで、その全ての平均の回数です。

小野寺委員

ということは、合格するまでに平均して3回程度、試験を受けるということになるわけですが、そうすると、試験と試験の間隔が大きく空いてしまうことが、運転免許取得に要する期間に大きく影響してくると思うのですが、実際に免許取得まで何日ぐらいかかっているのか伺います。

運転免許課長

学科試験に合格し、技能試験を受けられるまでの日数、あるいは一度、技能試験に不合格となって、次の技能試験を受けられるまでの日数の平均日数については、受けようとする免許の区分によって異なります。

例えば、普通第一種免許においては、令和元年中、閉庁日を除いて約4日となっております。また、普通仮免許では、約4.4日となっております。

小野寺委員

合格するまでに平均して3回ぐらい受験するという事で、今の質問は運転免許を取得するまでの期間を平均で伺ったのですが、その数字で間違いありませんか。

運転免許課長

閉庁日を除いた運転間隔の平均でして、例えば、普通第一種免許においては試験と試験との間隔の平均が約4日、普通仮免許については約4.4日となっております。

小野寺委員

私のところには、受験者あるいは特定届出自動車教習所の方々、あるいは普通二種免許も取得費用を負担して乗員養成を行っているタクシー会社からも、1回試験に落ちると、次の試験まで場合によっては2、3週間、二種に関しては長くて4週間ぐらい空いてしまうことがあるという話も聞いているのですが、現在、どれぐらいの間隔になっているのか教えてください。

運転免許課長

まず、本年3月中における普通第一種免許の試験日の間隔については、閉庁日を除き、平均して約9.4日となっております。また、同時期の普通仮免許では、約10.2日となっております。さらに、直近の統計である5月中については、普通第一種免許では約13.3日、普通仮免許については、約12.1日となっております。

小野寺委員

令和2年3月以降の運転免許試験日の間隔が、かなり長くなっていると感じます。新型コロナウイルス感染症の影響もあろうかと思いますが、間隔が空いてしまう理由はどのようなことでしょうか。

運転免許課長

毎年3月は、他の月に比べ、運転免許の技能試験の受験者が非常に多くなることが挙げられます。また、令和2年5月中については、新型コロナウイルス感染症対策で、技能試験を一部中止した影響により、業務再開後、一時的ではありますが受験者が集中したこと、そして感染予防対策の一環として、試験車両の車内が3密状態にならないように、1回当たりに乗車する受験者数を絞ったことなどが挙げられます。

小野寺委員

運転免許試験日の間隔が長くなっている原因について、今説明をいただいたわけですが、このような状況を改善して、少しでも例年並みの試験間隔に近づけるために、県警察としては、どのような取組を考えているのか聞かせてください。

運転免許課長

まずは運転免許試験を実施する技能試験官の体制強化についてです。春の人事異動で新たに開始された技能試験官候補者についても、研修を重ね、即戦力となるための育成を行い、技能試験官の体制強化を、現在、図っているところです。

次に、技能試験の予約方法の見直しについてです。具体的には、試験日当日に何の連絡もなく試験を受けに来られない方もいますので、その空いた枠の利用法、いわゆるキャンセル待ちの方法等について、現在、検討しているところです。

小野寺委員

運転免許技能試験官の育成と、キャンセル待ちの方法の再検討というようなことでしたが、キャンセル待ちについては、実際にどれぐらいの受験者が、当日になって技能試験をキャンセルしているのか、その数を伺います。

運転免許課長

令和元年中の運転免許技能試験の予約受理件数は約2万1,100件で、そのうち約6,400人が、当日キャンセル扱いとなっているので、キャンセルは全体の約3割を占めております。

小野寺委員

運転免許試験について、かなり多くの数のキャンセルが出るということが分かりました。

キャンセル待ちについて、これまではシステムの都合もあるという話でしたが、次回の指定日以降でないとキャンセル待ちができない仕組みになっていると聞いています。試験に不合格になり、次回は10日後や2週間後となると、早速翌日からでもキャンセル待ちをして、一日でも早く試験を受けたいと考えるのが当たり前だと思うのですが、このようなシステムについて、今後改善ができないのかどうか、また、どう考えているのかを伺います。

運転免許課長

まず、約3割の方が当日の運転免許試験をキャンセルしている状況でして、その数を見込んだ予約受付を、現在しております。また、委員御指摘のとおり、キャンセル待ちの方法については、次回の予約した試験日以降として現在行っているところですが、現在、その以前についてもキャンセル待ちができないかどうか、検討しているところです。

小野寺委員

運転免許試験キャンセル待ちの方法の改善、再検討をぜひお願いします。キャンセル待ちのシステムが、また新たに次回の指定日以前にもできるようになると、これが実質的な試験日間隔の短縮にもつながっていくと思います。

最後に、技能試験の受験期間の短縮について、今後の県警察の取組方針について伺います。

運転免許課長

県警察としても、業務再開後における新型コロナウイルス感染症対策を継続しつつ、技能試験官の必要人数の確保はもとより、キャンセル待ちの効果的な運用をはじめ、試験予約の方法等についても検討を進めてまいります。そして、少しでも技能試験の受験日間隔を短縮させることにより、県民の利便性が向上するよう、努めてまいりたいと考えております。

小野寺委員

運転免許センターでは、技能試験の受験間の短縮に向けて、様々な工夫を凝らしていただいているということは分かりました。

冒頭で、3月の事例を申し上げましたが、この試験日間隔が空いてしまうのは、特に3月の繁忙期に限ったことではありません。積雪などによって試験が行えなくなり、そのしわ寄せが来てしまうこともありますし、新しくなった運転免許センターの引っ越しに伴って、期間が空いてしまったということもあったと聞いています。

今回は新型コロナウイルス感染症の影響もありますが、様々な理由によって、この試験日間隔が空いてしまうことは、やむを得ない部分も実際あると思います。受験者が可能な限り短期間で免許を取得して、新たな一步をスムーズに踏み出せるようにするとともに、一日でも早くこの新型コロナウイルス感染症の影響で延びてしまった試験日間隔を、通常に戻していただくようお願いいたします。そして、今後も引き続き、県民ニーズを踏まえた県民本位の運転免許業務を推進していただくよう要望して、私の質問を終わります。